

第3回品質改善委員会

関東化成工業の事例紹介と工場見学

『トヨタグループとしてのTPS活動、品質向上への取り組み』



品質の重要性を説かれる福原社長の歓迎あいさつ

品質改善委員会の活動方針は『経営を左右する品質改善の仕組み・マインド充実』とし、今年度は成功と失敗の要因や教訓の活用等について検討している。今回は徹底した品質改善を継続する企業の取り組みについて、委員企業の関東化成工業の協力を得て実施した。

同社は、関東学院大学でめっきの工業化に成功して事業部を展開、その後独立分離して設立。主な製品は、樹脂へのめっき技術をコア技術としたグリルやエンブレム。02年には関東学院との産学協同による研究施設「関東学院大学表面工学研究所」も設立している。

TPS(トヨタ生産方式)は石油危機をきっかけに76年に導入。TPSの目指すものは徹底したムダの排除による原価低減。必要なものを必要なときに必要なだけ、をキーワードにしたジャストインタイムや看板を活用した後補充生産、次工程に絶対不良品を流さない不良率ゼロを目指した自工程完結などを柱にしている。

具体的には、Y = やりにくい、K = 気を使うYK作業を減らすことを目標に、各班で現場を一番良く知る作業者に改善記入用紙を配ったり、約50あるQCサークル活動の中で、日々の活動でできる身近な改善内容を話し合い改善を積み重ねている。

実際の樹脂めっきラインや組み立てラインの現場、また上記研究所を見学の後、最後の質疑応答では各委員より多数の質問で時間を延長するなど、関心の高さが伺えた。

(文責 事務局)